



2024年3月27日

各位

会社名 株式会社オプティ  
(コード番号 152A TOKYO PRO Market)  
代表者名 代表取締役社長 猪野 栄一  
問合せ先 専務取締役管理部長 河野 真二  
TEL 059-363-2512  
URL <https://opty.co.jp/>

東京証券取引所 TOKYO PRO Market への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日2024年3月27日に東京証券取引所 TOKYO PRO Market に上場いたしました。今後ともなお一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2024年2月期(2023年3月1日から2024年2月29日まで)における当社の業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

(単位:百万円、%)

項目	決算期	2024年2月期(予想)		2023年2月期(実績)		
		構成比	対前期増減率		構成比	
売上高		1,684	100.0	△29.6	2,390	100.0
営業利益		43	2.6	△46.0	81	3.4
経常利益		42	2.5	△46.6	79	3.3
当期純利益		29	1.7	△47.9	55	2.3
1株当たり当期純利益		123.83円		237.55円		
1株当たり配当金		0.00円		0.00円		

- (注) 1. 当社は、2024年1月31日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っておりますが、2023年2月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。
2. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式数で算出しております。

## 【2024年2月期業績予想の前提条件】

### 1. 当社全体の見通し

我が国の経済情勢は、新型コロナウイルス感染症の影響が弱まり、個人消費やインバウンド需要の復調が続きデフレ脱却の兆しが見えるものの、欧米の高インフレ、原材料やエネルギー価格の高騰、円安基調の継続、中国経済の景気減速、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の緊迫等により、先行きに対する不透明感は続いています。

このような情勢の中、当社は、高価ながら安定調達可能な国産尿素（原料）と安価ながら調達が不安定な輸入尿素（原料）のバランスを保ちつつ、業績の安定に努めております。また、メンテナンス商材を有効に活用し顧客基盤の拡大を図り、継続的な成長に向け取り組んでおります。

なお、以下に記載する業績予想につきましては、2023年3月から2024年2月までの実績値及び調整を必要とする決算整理仕訳等の予想値を使用して算出しております。

### 2. 業績予想の前提条件

#### (1) 売上高

当社は尿素水関連事業の単一セグメントであります。売上高は当社のビジネスモデルを構築する尿素水販売部門、尿素（原料）販売部門、消耗品販売部門、初期装置販売部門、メンテナンス商材販売部門の各部門で構成されております。

売上高は、当期の実績値に基づいて算定しております。

これらの結果、売上高は1,684百万円（前期比29.6%減）を見込んでおります。

#### (2) 売上原価、売上総利益

売上原価は、尿素（原料）の調達価格の変動要因を考慮のうえ、当期の実績値に基づいて算定しております。

これらの結果、売上原価は1,414百万円（前期比32.5%減）、売上総利益は269百万円（前期比8.6%減）を見込んでおります。

#### (3) 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費は、上場関連費用を考慮のうえ、当期の実績値に基づいて算定しております。

これらの結果、販売費及び一般管理費は226百万円（前期比5.5%増）、営業利益は43百万円（前期比46.0%減）を見込んでおります。

#### (4) 営業外損益、経常利益

営業外損益は、当期の実績値に基づいて算定しております。

これらの結果、経常利益は42百万円（前期比46.6%減）を見込んでおります。

#### (5) 特別損益、当期純利益

特別損益は、固定資産の売却及び除却に関する当期の実績値に基づいて算定しております。

当期純利益は、法人税等を考慮して29百万円（前期比47.9%減）を見込んでおります。

**【業績予想に関するご留意事項】**

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、調整を必要とする決算整理仕訳等により異なる場合があります。

以 上

## 2024年2月期 中間決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年3月27日

上場会社名 株式会社オプティ

上場取引所 東

コード番号 152A

URL <https://opty.co.jp/>

代表者（役職名） 代表取締役 （氏名）猪野 栄一

問合せ先責任者（役職名） 専務取締役管理部長 （氏名）河野 真二 TEL 059(363)2512

中間発行者情報提出予定日 — 配当支払開始予定日 —

中間決算補足説明資料作成の有無：無

中間決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2024年2月期中間期の業績（2023年3月1日～2023年8月31日）

## （1）経営成績（累計）

（％表示は対前年同期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期中間期	867	—	15	—	15	—	10	—
2023年2月期中間期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期中間期	44.23	—
2023年2月期中間期	—	—

（注）1. 当社は、2024年2月期中間期より中間財務諸表を作成しているため、2023年2月期中間期の数値及び2024年2月期中間期の対前年同期増減率については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は、2024年1月31日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っておりますが、2023年2月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり中間純利益を算定しております。

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年2月期中間期	371	219	59.1	935.51
2023年2月期	374	209	55.8	891.29

（参考）自己資本 2024年2月期中間期 219 百万円 2023年2月期 209 百万円

（注）当社は、2024年1月31日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っておりますが、2023年2月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産を算定しております。

## （3）キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 中間期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年2月期中間期	33	△1	△11	185
2023年2月期中間期	—	—	—	—

（注）当社は、2024年2月期中間期より中間財務諸表を作成しているため、2023年2月期中間期の数値については記載しておりません。

## 2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	—	0.00	0.00
2024年2月期	—	—	—
2024年2月期(予想)	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年2月期の業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,684	△29.6	43	△46.0	42	△46.6	29	△47.9	123.83

- （注） 1. 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無  
 2. 当社は、2024年1月31日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っておりますが、2023年2月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 注記事項

（1）中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無  
 ② ①以外の会計方針の変更：無  
 ③ 会計上の見積りの変更：無  
 ④ 修正再表示：無

（3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年2月期中間期	234,600 株	2023年2月期	234,600 株
2024年2月期中間期	— 株	2023年2月期	— 株
2024年2月期中間期	234,600 株	2023年2月期中間期	234,600 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

- （注）当社は、2024年1月31日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っておりますが、2023年2月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数（自己株式を含む）、期末自己株式数、期中平均株式数（中間期）を算定しております。

※ 中間決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる場合があります。

## ○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
（1）経営成績に関する説明	2
（2）財政状態に関する説明	2
（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
（1）中間貸借対照表	4
（2）中間損益計算書	6
（3）中間キャッシュ・フロー計算書	7
（4）中間財務諸表に関する注記事項	8
（継続企業の前提に関する注記）	8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）	8
（セグメント情報）	8
（重要な後発事象）	8

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当中間会計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限の緩和策が進み、経済活動は持ち直しの動きが継続しています。一方で、ウクライナ情勢の不透明感継続の影響等からエネルギー価格は高騰し、円安基調継続の影響もあり、景気感には下押しされる状況にあります。

このような情勢の中、尿素（原料）の流通価格は、輸入尿素（原料）が、コロナ禍からの経済回復を背景に物流量・価格とも急激に回復し大幅に値を下げたことで、一次原料の天然ガスや二次原料のアンモニア等のエネルギー価格高騰の影響を受ける国産尿素（原料）との流通価格差が顕著なものとなりました。

こうした状況の下、当社におきましては、安定供給を重視し国産尿素（原料）中心の調達を行ってまいりましたので、輸入尿素を中心とした競合他社との大幅な原料コスト差を要因として、当社本支店及び代理店各社において、製品における価格競争力低下を招く事態となったことで、当社本支店においては、製品価格競争における減収減益となり、代理店向け尿素（原料）販売においては、販売量低下による減収となりました。この状況を打開すべく、国産尿素（原料）調達商社との良好な取引関係を維持しながらも、安価な輸入尿素（原料）の調達率を40%程度にまで押し上げ、また、代理店向け尿素（原料）販売における利幅の調整等の企業努力も行い、製品における価格競争力の回復を図ってまいりました。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響で一時的に中止していたメンテナンス商材のセミナーも、行動制限の緩和に伴い再開し、尿素水の販売に繋がる営業にも取り組んでまいりました。

これらの結果、当中間会計期間の売上高は867,356千円、営業利益は15,996千円、経常利益は15,247千円、中間純利益は10,375千円となっております。

なお、当社の報告セグメントは「尿素水関連事業」のみであり、セグメント別の記載を省略しております。

### （2）財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当中間会計期間の財政状態につきましては、次のとおりです。

##### （資産の部）

総資産は371,646千円（前事業年度末比2,758千円減）となりました。流動資産につきましては、325,670千円（同9,302千円減）となりました。主な減少要因は、商品及び製品の減少4,746千円、原材料及び貯蔵品の減少10,023千円、前渡金の減少13,801千円等で、主な増加要因は、現金及び預金の増加20,975千円等によるものです。固定資産につきましては、45,975千円（同6,544千円増）となりました。これは主に、リース資産（純額）の増加6,871千円等によるものです。

##### （負債の部）

負債は152,174千円（同13,133千円減）となりました。流動負債につきましては、98,676千円（同9,149千円減）となりました。主な減少要因は、未払法人税の減少5,382千円、契約負債の減少14,939千円等で、主な増加要因は、買掛金の増加5,064千円、未払金の増加2,759千円等によるものです。固定負債につきましては、53,498千円（同3,983千円減）となりました。主な減少要因は、社債の減少5,000千円、長期借入金の減少4,596千円等で、主な増加要因は、リース債務の増加6,069千円等によるものです。

##### （純資産の部）

純資産は219,471千円（同10,375千円増）となりました。これは、繰越利益剰余金の増加10,375千円によるものです。

#### ②キャッシュ・フローの概況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）の残高は185,516千円（前事業年度末比20,975千円増）となりました。各キャッシュ・フローの状況と主な要因は以下のとおりです。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は33,685千円となりました。主な増加要因は、税引前中間純利益の計上15,448千円、棚卸資産の減少額14,770千円、仕入債務の増加額5,064千円、前渡金の減少額13,801千円等で、主な減少要因は、契約負債の減少額14,939千円等によるものです。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は1,306千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1,514千円等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は11,403千円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出4,596千円、社債の償還による支出額5,000千円等によるものです。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年2月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が弱まり、個人消費やインバウンド需要の復調が続きデフレ脱却の兆しが見えるものの、欧米の高インフレ、原材料やエネルギー価格の高騰、円安基調の継続、中国経済の景気減速、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の緊迫等により、先行きに対する不透明感は続いています。

このような情勢の中、当社は、高価ながら安定調達可能な国産尿素（原料）と安価ながら調達が不安定な輸入尿素（原料）のバランスを保ちつつ、業績の安定に努めております。また、メンテナンス商材を有効に活用し顧客基盤の拡大を図り、継続的な成長に向け取り組んでおります。

以上をふまえ、当事業年度の業績予想につきましては、売上高1,684百万円（前年同期比29.6%減）、営業利益43百万円（前年同期比46.0%減）、経常利益42百万円（前年同期比46.6%減）、当期純利益29百万円（前年同期比47.9%減）を予想しております。

上記の業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の状況等によって実際の業績は予想された内容から変動する可能性があります。業績予想の変更の必要性が生じた場合には、速やかに開示いたします。



## 2. 中間財務諸表及び主な注記

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当中間会計期間 (2023年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	164,540	185,516
受取手形	2,917	2,007
売掛金	59,475	58,953
商品及び製品	35,444	30,698
原材料及び貯蔵品	29,593	19,569
前渡金	43,492	29,691
前払費用	2,098	1,764
貸倒引当金	△2,589	△2,529
流動資産合計	334,973	325,670
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,200	1,200
減価償却累計額	1,199	1,199
建物（純額）	0	0
建物附属設備	1,473	4,268
減価償却累計額	698	752
建物附属設備（純額）	774	3,515
機械及び装置	33,825	34,853
減価償却累計額	19,202	21,437
機械及び装置（純額）	14,622	13,416
車両運搬具	27,516	24,254
減価償却累計額	22,091	19,825
車両運搬具（純額）	5,424	4,428
工具、器具及び備品	3,601	4,005
減価償却累計額	1,940	2,231
工具、器具及び備品（純額）	1,661	1,774
リース資産	9,616	17,616
減価償却累計額	2,633	3,762
リース資産（純額）	6,982	13,854
有形固定資産合計	29,465	36,988
無形固定資産		
電話加入権	370	370
ソフトウェア	454	388
無形固定資産合計	824	759
投資その他の資産		
投資有価証券	290	290
敷金及び保証金	1,800	1,800
繰延税金資産	6,600	5,792
その他	450	345
投資その他の資産合計	9,140	8,228
固定資産合計	39,430	45,975
資産合計	374,404	371,646

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当中間会計期間 (2023年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	16,837	21,902
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
1年内返済予定の長期借入金	9,192	9,192
リース債務	2,013	3,720
未払金	6,915	9,674
未払費用	2,731	4,066
未払法人税等	9,648	4,265
未払消費税等	5,108	4,206
契約負債	41,386	26,447
預り金	1,242	1,801
賞与引当金	2,750	3,400
流動負債合計	107,826	98,676
固定負債		
社債	30,000	25,000
長期借入金	20,386	15,790
リース債務	6,181	12,250
長期未払金	914	457
固定負債合計	57,481	53,498
負債合計	165,308	152,174
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	199,095	209,471
利益剰余金合計	199,095	209,471
株主資本合計	209,095	219,471
純資産合計	209,095	219,471
負債純資産合計	374,404	371,646

## (2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
売上高	867,356
売上原価	743,178
売上総利益	124,178
販売費及び一般管理費	108,182
営業利益	15,996
営業外収益	
受取利息	0
受取手数料	10
営業外収益合計	11
営業外費用	
支払利息	539
社債利息	41
支払保証料	179
営業外費用合計	760
経常利益	15,247
特別利益	
固定資産売却益	208
特別利益合計	208
特別損失	
固定資産売却損	0
固定資産除却損	6
特別損失合計	6
税引前中間純利益	15,448
法人税、住民税及び事業税	4,266
法人税等調整額	807
法人税等合計	5,073
中間純利益	10,375

## (3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前中間純利益	15,448
減価償却費	4,871
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△59
賞与引当金の増減額 (△は減少)	650
受取利息	△0
支払利息及び社債利息	580
有形固定資産売却損益 (△は益)	△208
固定資産除却損	6
売上債権の増減額 (△は増加)	1,431
棚卸資産の増減額 (△は増加)	14,770
仕入債務の増減額 (△は減少)	5,064
前渡金の増減額 (△は増加)	13,801
契約負債の増減額 (△は減少)	△14,939
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△902
その他の資産の増減額 (△は増加)	1,338
その他の負債の増減額 (△は減少)	2,061
小計	43,917
利息の受取額	0
利息の支払額	△583
法人税等の支払額	△9,648
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,685
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△1,514
有形固定資産の売却による収入	208
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,306
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△4,596
割賦債務の返済による支出	△684
リース債務の返済による支出	△1,123
社債の償還による支出	△5,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,403
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	20,975
現金及び現金同等物の期首残高	164,540
現金及び現金同等物の中間期末残高	185,516

（4）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

当社は「尿素水関連事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。